

令和5年度における業務実績に関する評価表(全体評価)

資料5

大項目名	評価の記号 (大項目評価) ※1	評点 (α) ※2	評価比率 (β) ※3	$\alpha \times \beta$	評価の記号	全体評価に関するコメント
					(全体評価)	
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	—					別紙のとおり
	1 教育			15%		
	2 学生の確保と支援			10%		
	3 研究			10%		
	4 地域・社会貢献			15%		
	5 平和			10%		
	6 国際化			10%		
第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置	—					
	業務運営の改善及び効率化			10%		
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	—					
	財務内容の改善			15%		
第5 自己点検、評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	—					
	自己点検、評価及び情報の提供			2.5%		
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	—					
	その他業務運営			2.5%		
計				※4	#####	

(注) ※1 「評価の記号(大項目評価)」は、各大項目の評価結果を「SABCD」の5段階で記入してください。

※2 「評点」は「評価の記号(大項目評価)」と連動します。S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点

※3 評価比率は、令和4年度の評価委員会で決定したものです。

※4 「評価の記号(全体評価)」は、次のとおり、この数値($\alpha \times \beta$ の計)と連動します。

$\alpha \times \beta$ の合計=Xとすると、 S... $4.5 < X$ A... $3.5 < X \leq 4.5$ B... $2.5 < X \leq 3.5$ C... $1.5 < X \leq 2.5$ D... $X \leq 1.5$ となります。

全体評価に関するコメント

○研究活動の活性化と、優秀な大学院生の確保（その結果としての定員の充足）との好循環を期待したい。また、公正な教育・研究環境を確保するために、コンプライアンス体制を一層推進されたい。

○大学の諸活動の見える化が進められている。特に、自己点検の体制を構築し、教育の質の確保に尽力している点は高く評価できる。一方で、大学院の定員の充足や質の高い研究論文の増加、科学研究費の増加は継続的な課題となっている。各教員の努力は不可欠であるが、大学内外の横断的な連携を拡大することが課題解決に役立つと思われ、そのためには大学の一層の支援や関与が必要である。

○着実に改善・向上が進められているものと評価した。

○中期計画に沿って着実に進めていると思う。広島市立大学の建学の理念をより一層突出させ、大学としてのブランディングを形成していただきたい。

○教育に関しては、非常に堅実によく行っていると感じる。社会人教育を今後より強化すべきだと思うので、enPiTなどの発展を期待したい。研究に関しては、研究推進担当の理事長補佐を置いたり努力は認められるが、まだ物足りない。学部の特徴もあって一概には言えないが、良い人材の確保が重要であり、情報科学部は大型研究費を獲得できる若手研究者を採用することを考慮すべきだと思う。地域・社会貢献、平和、国際化なども堅実にやるべきことを行っていると判断できる。大学は堅実性が重要であるが、少しマンネリ感を感じる。次世代に向けての新規の取組も必要かもしれない。